Smart at AI for kintone
Powered by GPT

利用マニュアル

2026年 7月 30日 第39版

M-SOLUTIONS

改訂履歴

以下、本マニュアルの改訂履歴です。

版数	作成/更新日	改訂要旨
初版	2023.10.26	新規作成
第2版	2023.10.26	トライアル利用の追加
第3版	2023.12.22	注意事項にゲストスペース対応を追記等
第4版	2023.12.26	注意事項の追加（IPアドレス制限）
第5版	2024.01.26	利用状況、HTML表示、設定書出・設定読込の追記
第6版	2024.02.05	プロンプトに添付ファイルを挿入する場合の追記。モバイル対応。 HTML表示について説明を記載。
第7版	2024.02.27	kintoneWebhookを利用した生成について誤表記を訂正 プロンプトチェーンとパラメータ値詳細設定対応について追記
第8版	2024.03.26	Web取得対応の追記
第9版	2024.04.05	Anrhropic対応の追記と注意事項の追加（HTML表示時のiframeタグ）
第10版	2024.05.28	一覧連続実行とバッチ実行ログ機能の追記
第11版	2024.06.27	Gemini対応、画像ファイル読込、プロンプトごとにモデル設定を可能にする対応、コンテンツストアURL追加の追記
第12版	2024.07.31	生成API設定の変更

改訂履歴

版数	作成/更新日	改訂要旨
第13版	2024.08.20	検索拡張生成（RAG）の機能追加。Smart at APIキーの記載変更。
第14版	2024.09.27	レコード生成機能の追加。
第15版	2024.10.10	「レコードを追加」に関するの記載内容の変更。
第16版	2024.10.28	エージェント実行機能の追加。
第17版	2024.11.26	エージェント実行の一覧表示を追加。ツールチップの追加による画像の差し替え。
第18版	2024.12.23	添付ファイルの複数対応、添付ファイルの種類を追加。
第19版	2025.01.27	マークダウン、推奨モデル表示、添付ファイルの種類を追加
第20版	2025.02.25	AnthropicのPDF対応に伴い、添付ファイルの種類を修正
第21版	2025.03.04	注意事項に「moconavi」のセキュアブラウザ「mocochro（モコクロ）」対応を追記
第22版	2025.03.24	OpenAIの添付ファイル対応（追加）
第23版	2025.04.22	プロンプト条件設定機能、結果保存先フィールドの種類を追加。
第24版	2025.05.27	長文生成機能、実行条件に指定できるフィールドの追加。
第25版	2025.06.27	Web検索の追加、プロンプトプレビューの追加、文字フィールドの変更

改訂履歴

版数	作成/更新日	改訂要旨
第26版	2025.07.31	ボタンのグループ化対応。長文生成のフィールド指定対応。
第27版	2025.08.27	画像生成の追加。
第28版	2025.09.29	カスタム一覧設定の追加。実行条件に添付ファイルの追加。
第29版	2025.10.17	生成モデルパラメーターの説明を変更。コードインタープリター対応。 カスタム一覧の複製対応
第30版	2025.11.17	生成画像枚数の指定追加
第31版	2025.12.22	SAML認証、２要素認証の制限解除。コードインタープリターのフォント指定対応。
第32版	2025.12.26	ファイルリファレンスのアプリテンプレートの説明変更。
第33版	2026.01.26	ゲストユーザーが生成実行した際の注意点を追加。ファイルリファレンスからファイルを添付できる機能追加。長文生成時の総繰り返し回数のフィールド指定追加。構造化方式の対応。
第34版	2026.02.24	プロンプトにコメント差込機能を追加。 ボタンをグループ化した時の注意点を追加。
第35版	2026.03.27	生成結果をコメントに出力する機能を追加。メンション先もフィールド選択できるように対応。

改訂履歴

版数	作成/更新日	改訂要旨
第36版	2026.04.24	生成結果をコメントへ出力する際、cybozu.com共通管理のユーザー、組織、グループをメンション先に指定できるように対応。
第37版	2026.05.22	ファイル生成機能の追加。一覧連続生成実行で生成ボタンの表示を制御。音声ファイルの追加。
第38版	2026.06.22	Anthropicで対応している拡張子を追加。設定保存履歴機能の追加。
第39版	2026.07.30	設定保存履歴でプロンプトの情報の表示を追加。kintoneのBasic認証に対応。カスタム一覧の絞り込み条件にユーザー選択やレコード番号の追加。

kintoneへのインストール手順

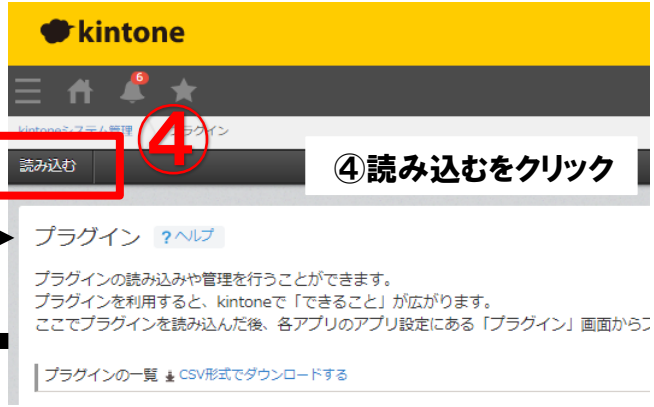


①kintone画面右上の歯車マークをクリック

②kintoneシステム管理をクリック



③プラグインをクリック



④読み込むをクリック



⑤参照をクリックし、ダウンロードしたプラグインを選択

⑥読み込むをクリック



⑦「読み込んだプラグイン」項目に当該プラグインが表示されているか確認してください

※画像のプラグインは例です

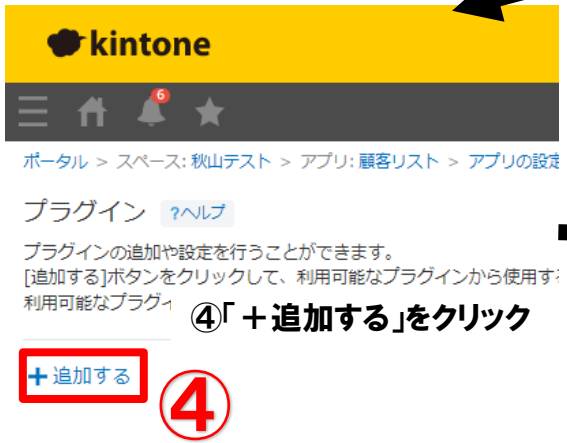
参考：kintoneヘルプ（https://jp.cybozu.help/k/ja/）
kintone ヘルプ > 管理者ヘルプ > プラグインの管理 > プラグインを追加／削除する（システム管理）

アプリへの設定手順


アプリ内検索
①プラグインを設定するアプリを開き
画面右の歯車マークをクリック
1
1 - 20 （20件中）


kintone
②設定タブをクリック
顧客リスト
フォーム
一覧
グラフ
設定
2
フォームを保存

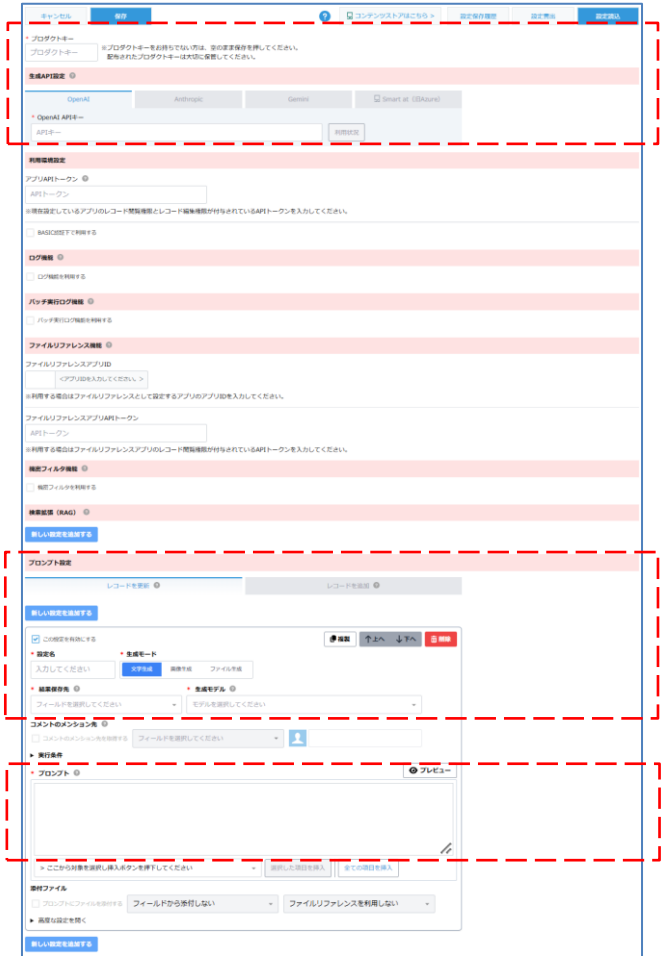

kintone
顧客リスト
③プラグインをクリック
フォーム
一覧
グラフ
設定
一般設定
カスタマイズ/サービス連携
アイコンと説明
プラグイン
デザインテーマ
JavaScript / CSSでカスタマイズ
3


kintone
ポータル > スペース: 秋山テスト > アプリ: 顧客リスト > アプリの設定
プラグイン
?ヘルプ
プラグインの追加や設定を行うことができます。
[追加する]ボタンをクリックして、利用可能なプラグインから使用す
利用可能なプラグ
④「＋追加する」をクリック
＋追加する
4


kintone
⑤表示されたプラグインから
アプリに設定したいプラグイン
の左側に☑を入れ画面右下の
「追加」ボタンをクリックする
ポータル > スペー
プラグインの
5
プラグイン名
説明
ルックアップコピー先反映プラグイン ver1.1.15
既読チェックプラグイン ver1.8.8
Smart at message for kintone v3.3.0 stg


⑥追加されたプラグインの歯車マーク
をクリックし、プラグインの設定に進む
※画像のプラグインは例です
プラグイン
?ヘルプ
プラグインの追加や設定を行うことができます。
[追加する]ボタンをクリックして、利用可能なプラグインから使用するプラグインを選
利用可能なプラグインの登録は、kintoneシステム管理から行います（kintoneのシステ
＋追加する
状態
プラグイン名
設定
説明
有効
無効にする
検索拡張プラグイン ver1.7.2
6

設定画面



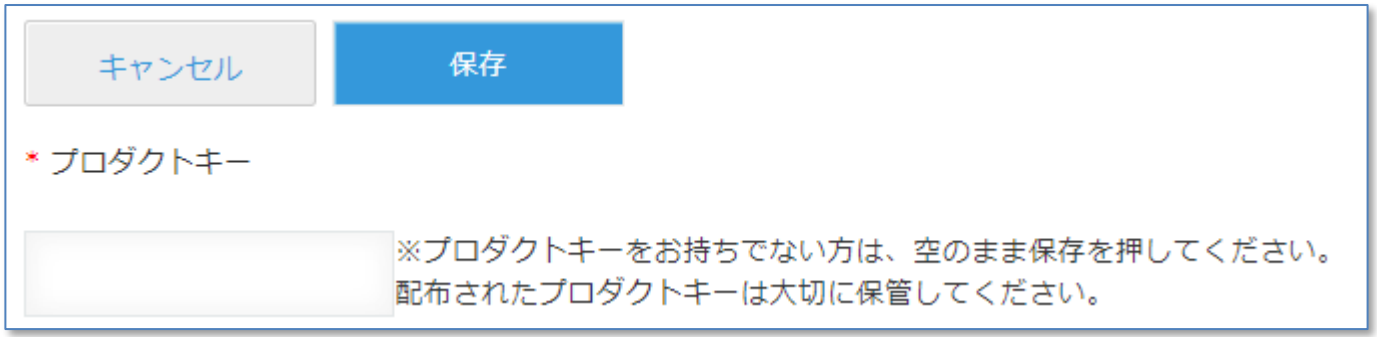
設定項目

- プロダクトキー
- 生成API設定
- 利用環境設定
- ログ機能 （有償版機能）
- バッチ実行ログ機能
- ファイルリファレンス
- 機密フィルタ （有償版機能）
- 検索拡張（RAG）
- プロンプト設定

※**赤枠**で囲まれた部分は必須設定項目となります。

プロダクトキー設定方法

プロダクトキーは保存時に自動生成されます。
プラグインを複数アプリに適用する場合、生成されたプロダクトキーをコピーし貼り付けて保存してください。



※初回設定時にプロダクトキーが表示されますので、忘れないよう保管してください。プロダクトキーがわからなくなってしまった場合は、サポートへお問い合わせいただきドメインをお知らせください。

生成API設定と利用環境設定

生成環境は**「OpenAI」「Anthropic」「Gemini」「Smart at (旧Azure)」**の4つを設定することができます。
各環境の違いは下記の通りです。

	OpenAI Anthropic Gemini	Smart at (旧Azure)
利用	**無償版**	**トライアル、有償版**
APIキー	**お客様でご用意**	**弊社で発行**

OpenAI APIキー, Anthropic APIキー

「sk-」から始まるAPIキーをお客様でご用意ください。
OpenAI 参考URL) https://zenn.dev/umi_mori/books/chatbot-chatgpt/viewer/how_to_use_openai_api
Anthropic 参考URL) https://zenn.dev/en2enzo2/articles/77818ab03d9da2#claude3%E5%A7%8B%E3%82%81%E6%96%B9

Smart at (旧Azure) APIキー

トライアル時は、弊社営業よりご連絡いたします。
有償版ご契約時は、サポートよりお送りするメールでご連絡いたします。



① 利用する環境のタブを選択します。

② 利用環境に応じたAPIキーを入力します。
※APIキーについては上記枠線内をご確認ください。

③ 当月の生成回数、添付ファイル利用回数を表示します。

④ 現在設定しているアプリのAPIトークンを入力します。
※詳細は**プロンプト設定 高度な設定 Webhook 設定①**をご覧ください。

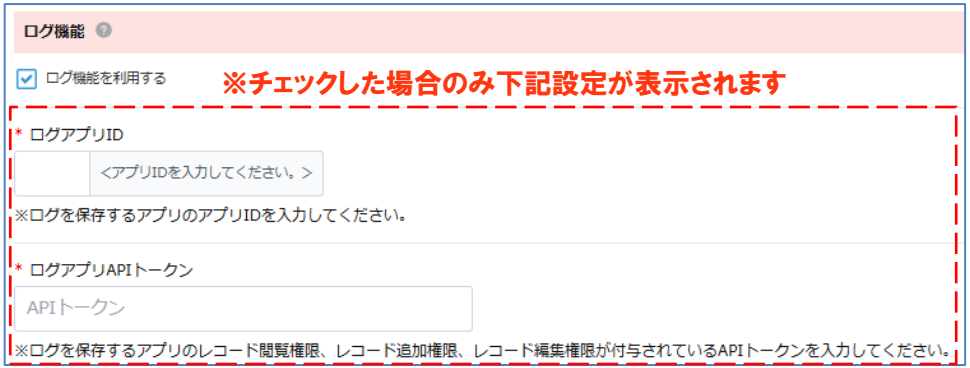
⑤ Basic認証の設定を行います。
Basic認証でkintoneを利用している場合は、弊社サーバーからkintoneへアクセスしますので、Basic認証の情報を設定してください。

ログ機能

※トライアル、有償版機能

生成実行時の実行ログを指定したアプリに残すことができます。
指定するログアプリはテンプレートファイルを用いて別途作成してください。

参考）kintoneヘルプ（ https://jp.cybozu.help/k/ja/ ）
kintone ヘルプ > ユーザーヘルプ > アプリの作成と削除 > ファイルを読み込んでアプリを作成する >テンプレートファイルからアプリを作成する



① ログ機能を利用する場合はチェックします。

② ログアプリのアプリIDを入力します。
※「https://[サブドメイン].cybozu.com/k/」に
続いて表示されている末尾の数字がアプリIDです。

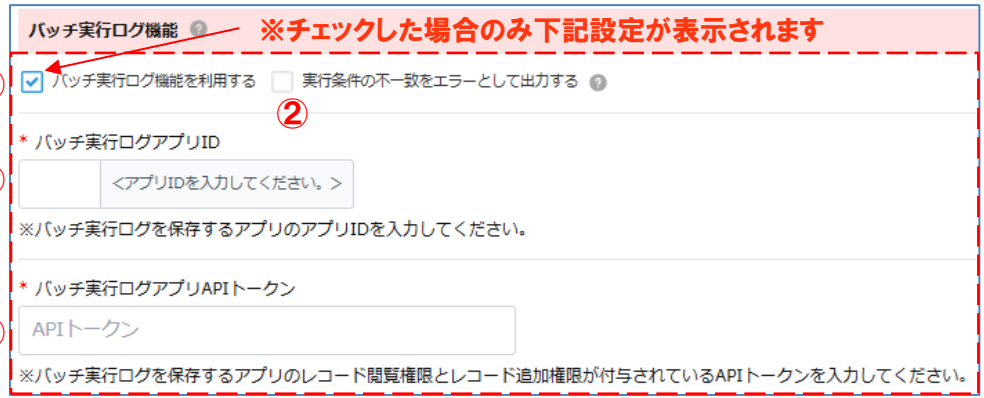
③ ログアプリのAPIトークンを入力します。
※閲覧・追加・編集権限のあるAPIトークンを入力してください。

参考）kintoneヘルプ（ https://jp.cybozu.help/k/ja/ ）
kintone ヘルプ > ユーザーヘルプ > アプリの設定 > APIトークンを生成する

バッチ実行ログ機能

一覧連続実行時の実行ログを指定したアプリに残すことができます。
指定するバッチ実行ログアプリはテンプレートファイルを用いて別途作成してください。

参考）kintoneヘルプ（ https://jp.cybozu.help/k/ja/ ）
kintone ヘルプ > ユーザーヘルプ > アプリの作成と削除 > ファイルを読み込んでアプリを作成する >テンプレートファイルからアプリを作成する



① バッチ実行ログ機能を利用する場合はチェックします。

② 実行条件の不一意をエラーとして出力する場合はチェックします。

③ バッチ実行ログアプリのアプリIDを入力します。
※「https://[サブドメイン].cybozu.com/k/」に続いて表示されている末尾の数字がアプリIDです。

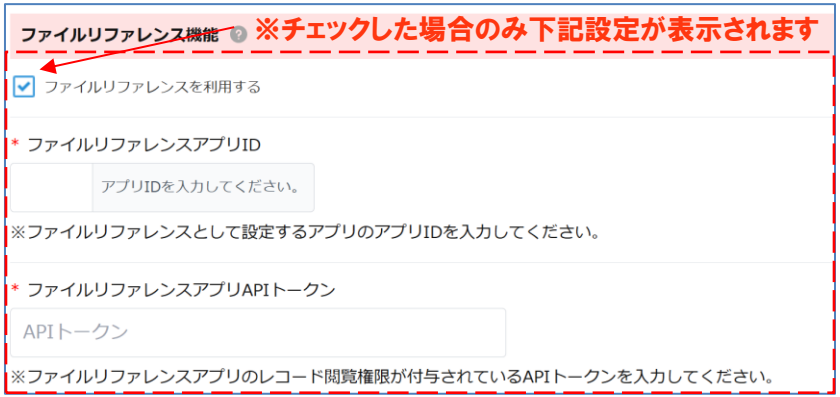
④ バッチ実行ログアプリのAPIトークンを入力します。
※閲覧・追加・編集権限のあるAPIトークンを入力してください。

参考）kintoneヘルプ（ https://jp.cybozu.help/k/ja/ ）
kintone ヘルプ > ユーザーヘルプ > アプリの設定 > APIトークンを生成する

ファイルリファレンス機能

指定のkintoneアプリに登録されたファイルを読み込む場合に設定します。
（コードインタープリターのフォントなど）

参考）kintoneヘルプ（ https://jp.cybozu.help/k/ja/ ）
kintone ヘルプ > ユーザーヘルプ > アプリの作成と削除 > ファイルを読み込んでアプリを作成する >テンプレートファイルからアプリを作成する



① ファイルリファレンス機能を利用する場合はチェックします。

② ファイルリファレンスアプリのアプリIDを入力します。
※「https://[サブドメイン].cybozu.com/k/」に続いて表示されている末尾の数字がアプリIDです。

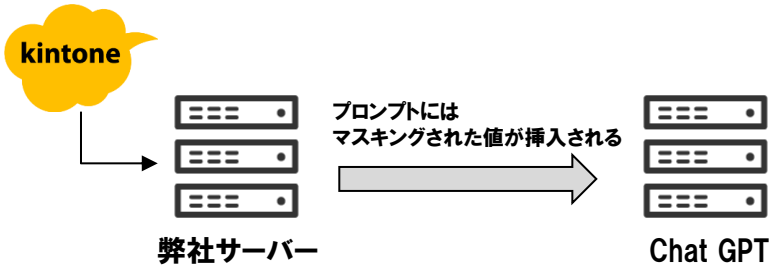
③ ファイルリファレンスアプリのAPIトークンを入力します。
※閲覧・追加・編集権限のあるAPIトークンを入力してください。

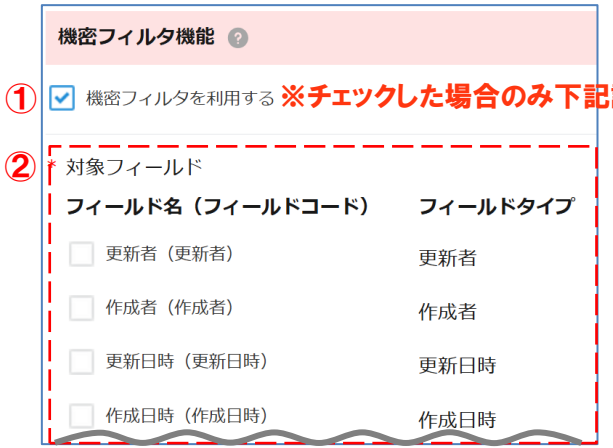
参考）kintoneヘルプ（ https://jp.cybozu.help/k/ja/ ）
kintone ヘルプ > ユーザーヘルプ > アプリの設定 > APIトークンを生成する

機密フィルタ機能

※トライアル、有償版機能

設定で指定したフィールドの値をマスキングすることができます。



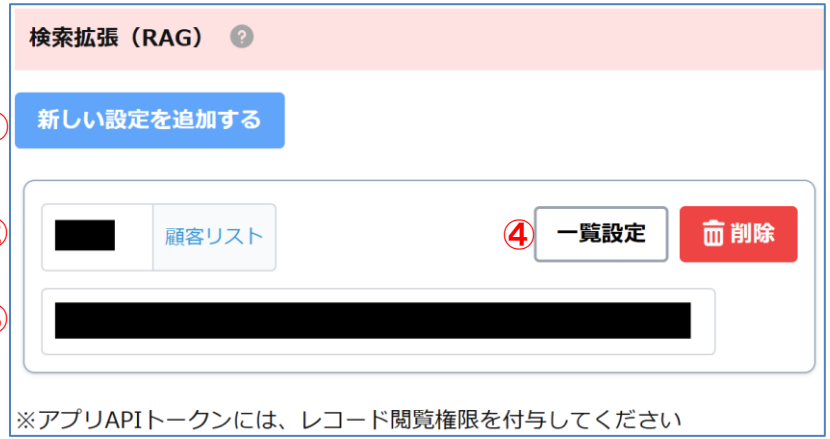


① 機密フィルタ機能を利用する場合はチェックします。

② 機密フィルタの対象とするフィールドを設定します。
※添付ファイルのフィールドも指定することが可能ですが、機密フィルタを利用することができません。ChatGPTへ送らないようにする場合は、プロンプトに添付ファイルを添付しないよう設定してください。

検索拡張生成機能（RAG）

アプリに登録されたレコード情報を元に生成を実行することができます。



① ボタンで３つまで設定することが可能です。

② 参照するアプリのアプリIDを入力します。
「https://[サブドメイン].cybozu.com/k/」に
続いて表示されている末尾の数字がアプリIDです。

③ 上記アプリのAPIトークンを入力します。
閲覧権限のあるAPIトークンを入力してください。

参考）kintoneヘルプ（ https://jp.cybozu.help/k/ja/ ）
kintone ヘルプ > ユーザーヘルプ > アプリの設定 > APIトークンを生成する

④ カスタム一覧を作成することができます。
詳細は、次ページ以降のカスタム一覧の作成を参照してください。

※アプリから取得できるレコード件数にはプラン毎に制限があります。
制限を超えたレコード情報は取得されません。複数のアプリを設定した場合は、合計のレコード件数です。
複数のプランをご契約の場合は、上位プランの件数が制限になります。

無償版	： 20件
ライト版（旧GPT3）	： 200件
スタンダード版（旧GPT4）	：2,000件
プレミアム版	：2,000件

カスタム一覧設定

検索拡張(RAG)から「一覧設定」のボタンより、カスタム一覧を設定することができます。
これにより、対象のデータやフィールドを絞り込み、取得する情報量を軽減させる事が出来ます。





設定済みの一覧が表示され、カスタム一覧を追加することができます。また「複製」ボタンで既存の一覧を複製し、一覧を変更して利用することができます。



kintoneのフィールドを選択することができます。

設定を保存後、データを表示することができます。

カスタム一覧名、表示フィールド、絞り込み条件、ソートの順番を設定することができます。

グループ選択、組織選択は絞り込み条件に追加することはできません。一覧を複製した時は、参照のみで編集できません。

プロンプト設定（レコードを更新）1



① 生成結果を更新先を指定することができます。
自アプリへレコード更新するか、指定したアプリへレコード追加するか選択します。

② 新しい設定を追加することができます。

③ 設定を有効にする場合はチェックします。

④ 任意の設定名を入力します。

⑤ 生成モードを選択します。
「文字生成」、「画像生成」、「ファイル生成」を選択します。
コードインタープリターを利用する場合は、「文字生成」を選択します。拡張子がpptx,xlsx,docx,pdfのファイルを生成する場合は、「ファイル生成」を選択します。

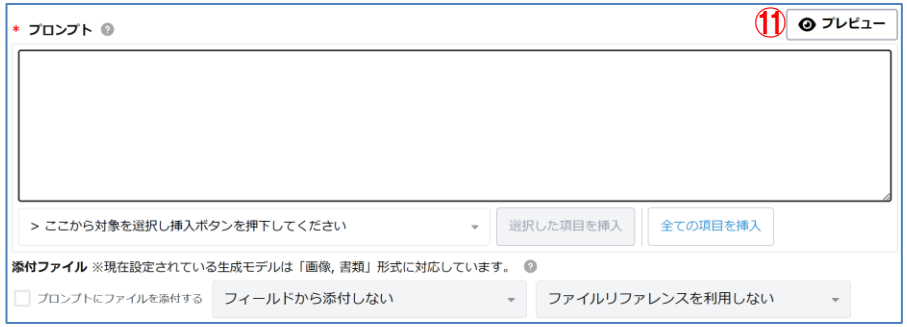
⑥ 結果を保存するフィールドを選択します。
利用可能なフィールドの種類は、スライド「結果保存先で選択できるフィールド」に記載しています。

⑦ 生成モデルを選択します。
モデルによって利用できる添付ファイルやWeb検索を利用することができます。

⑧ コメントのメンション先を選択します。
結果保存先で「レコードのコメント」を指定した場合、メンション先を選択することができます。
・「ユーザー選択」、「組織選択」、「グループ選択」のフィールドを選択することができます。
・上記で「ユーザー、組織、グループを指定」の「メンション先を選択」を選択した場合、cybozu.com共通管理のユーザー、組織、グループを指定することができます。

⑨ 実行条件を指定することができます。
「+」で実行条件のフィールドや値を設定することができます。

プロンプト設定（レコードを更新）2



⑩ プロンプトを入力します。

⑫のドロップダウンリストからフィールドの値を挿入することができます。
（例）%%フィールドコード%%
ファイル生成やコードインタープリターの生成を行う場合、文字化けしないように、フォントファイルを記載して下さい。また、ファイル生成を行う場合は、文字コードやエンコードも記載するようにしてください。
（例）日本語フォントは、IPAexフォントを使用し、文字コードはUTF-8でエンコードしてください。

⑪ プロンプトをプレビュー表示します。

最新のレコードを参照し、プロンプトをプレビュー表示することができます。

⑫ プロンプトへ項目を挿入する。

ドロップダウンリストから項目を選択し、「選択した項目を挿入」ボタンを押下することで、プロンプトへ項目を追加できます。
ドロップダウンリストの先頭の「項目名も同時に挿入する」にチェックすると、項目名も含め、挿入することができます。
「全ての項目を挿入」ボタンで挿入することもできます。

※挿入可能な項目の種類は、スライド「プロンプトに挿入できる項目」に記載しています。
※検索拡張生成機能(RAG)を設定している場合、参照するアプリの一覧を選択することができます。
※下記のシステム変数を挿入することができます（JST表示）。
実行した日時、実行した時刻、実行した曜日、実行した日。
※「長文生成モードを有効にする」をチェックしている場合、「繰り返し回数」と「総繰り返し回数」を挿入することができます。

⑬ 添付ファイルを読込みする場合はチェックします。

添付ファイルのフィールドを指定します。対象のフィールドに複数のファイルが添付されている場合も対象となります。ファイルリファレンスの添付ファイルを利用することができます。ファイル生成時に文字化けする場合は、フォントファイルを添付し、プロンプトでフォントファイル名を利用するよう指定してください。

※ 添付ファイルの読込み可能なモデルを選択時のみチェックできます。
※OpenAIの生成モデルでは、ファイルは１つのみ添付対象となります。

プロンプト設定 高度な設定（レコードを更新）１

高度な設定ではWebhook設定や生成タイミング、生成ボタンのカスタマイズなどが可能です。



① 1つ上のプロンプトに続けて生成を行う場合はチェックします。

② kintoneのWebhookを利用して生成を行う場合はチェックします。
※詳細は次ページ以降のWebhookの設定をご覧ください。

③ 生成時の確認ダイアログの有無を選択します。
Webhook利用時は「生成ボタン押下時」のみ確認ダイアログを表示します。

④ 生成タイミングを設定します。
- Webhookを利用しない場合は、必須設定になります。
- 生成ボタンの表示位置や、ボタン名称を設定することができます。
- 「グループ化する」にチェックを入れると、設定したボタンを表示エリア内でグループ化し、生成時にプロンプトを選んで実行することができます。
  レコード上部や、指定したスペース内でボタンをグループ化することができます。
- 一覧連続実行ボタンは一覧画面から複数レコードを絞り込み、１レコード毎に生成を行います。ボタンを表示する一覧を選択することができます。
- エージェント実行は、実行対象の一覧を選択し、生成を実行する日時を指定することができます。詳細は、次ページ以降のエージェント実行を参照して下さい。
- レコード追加は、レコード追加を行った時に生成を行います。
- レコード編集は、レコード編集を行った時に生成を行います。

※モバイル表示でグループ内にグループ化したボタンを設定した場合、一覧が切れて表示される場合があります。グループを使用しないか、ラベルなどで表示を調整してください。

プロンプト設定 高度な設定（レコードを更新）2

高度な設定ではWebhook設定や生成タイミング、生成ボタンのカスタマイズなどが可能です。



⑤ Web情報から最新の情報を含めて生成します。

Web検索可能な生成モデルを指定してください。コードインタープリターの同時利用はできません。

⑥ URLから情報を取得し、生成を行う場合はチェックします。

テキスト形式かHTML形式かを選択することができます。

※HTML形式を選択するとURLから取得する情報量が多くなり、トークン数が上限を超えてしまう場合があります。トークン数の多いモデルを選択する、または情報量が少ないURLを指定して下さい。

⑦ プロンプト本文に含まれる一覧やテーブルフィールドの構造化方式を指定します。

toon形式にすると、生成結果の精度が向上する可能性があります。

※toon形式では、一覧に含まれるテーブルフィールドのフィールド名が出力されますが、CSV形式では出力されません。

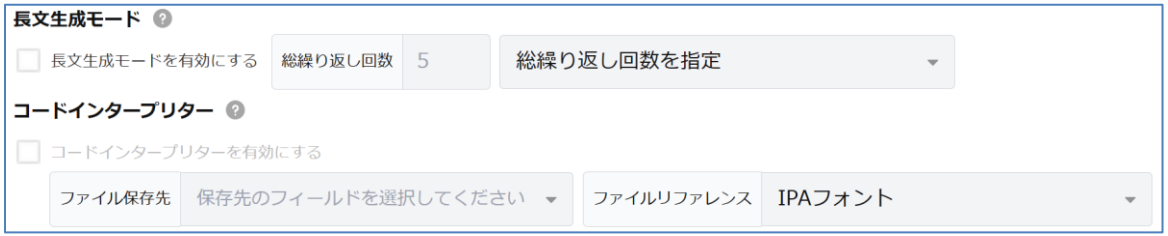
⑧ 生成結果をHTML/マークダウン表示する場合にチェックします。

HTML表示するスペース(要素ID)を選択します。プロンプトでHTMLのタグ付きで出力するように指示することで、「結果保存先」に原文が表示され、選択したスペースにHTMLで表示されます。

画像生成時は設定できません。

プロンプト設定 高度な設定（レコードを更新）3

文字生成では、長文生成モードやコードインタープリターを利用することが可能です。



⑨ 長文生成モードを行う場合はチェックします。

長文などで何回かに分けて繰り返し生成する場合に、総繰り返し回数を設定します。数値フィールドから総繰り返し回数を取得することも可能です。画像生成時は設定できません。

⑩ コードインタープリターを利用する場合はチェックします。

・コードインタープリターが利用できる生成モデルを利用し、数値計算やデータ分析などを行うことができます。
・生成結果としてファイルが出力される場合がありますので、ファイル保存先のフィールドを指定します。
・画像生成時、２バイト文字が文字化けするため、画像生成時に利用するフォントを指定することができます。デフォルトで用意しているフォントを選択することが可能ですが、ファイルリファレンスを利用し、kintoneアプリに設定したフォントを取り込むことも可能です。
・対応しているフォントファイルは以下です。フォント以外のファイルは、指定しないようにしてください。
　OpenAIの生成モデルでは、拡張子「ttf」、「otf」のファイルをZIPで圧縮したファイル
　Anthropicの生成モデルでは、拡張子「zip」、「ttf」、「otf」のファイル
※フォントを指定しても日本語タイトルなどで文字化けが発生する場合があります。
※プロンプト内で添付したフォントのファイル名を指定してください。

プロンプト設定 高度な設定（レコードを更新）4

画像生成時、生成画像枚数の指定が可能です。

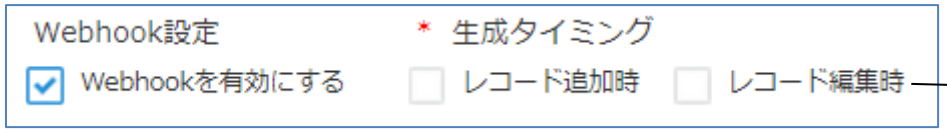
⑪



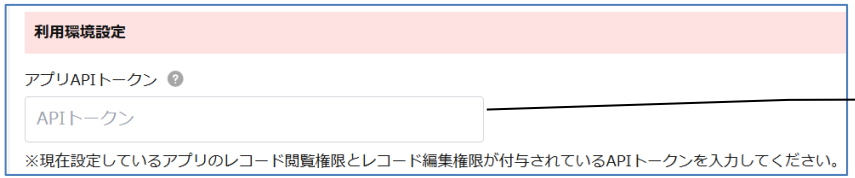
⑪ 生成する画像の枚数を指定します。
最大4枚までです。

プロンプト設定 高度な設定 Webhook 設定①　（レコードを更新）

本設定を有効にすると、Webhookを利用して生成を実行することができます。
※併せてkintoneのWebhook設定を行ってください。



Webhook利用時の生成タイミングを設定します。



利用環境設定の「アプリAPIトークン」に
現在設定しているアプリのAPIトークンを入力します。
※編集権限のあるAPIトークンを入力してください。

参考）kintoneヘルプ（ https://jp.cybozu.help/k/ja/ ）
kintone ヘルプ > ユーザーヘルプ > アプリの設定 > APIトークンを生成する

※kintone Webhookの仕様上、以下の場合には生成を実行することができません。

- Excel/CSVファイルを読み込んでレコードを操作する
- 複数のレコードを一括削除する
- 複数のレコードを一括操作するREST APIを使用してレコードを操作する
- 1分間に61回以上レコードを操作する(61回目以降の操作は生成が実行されません)

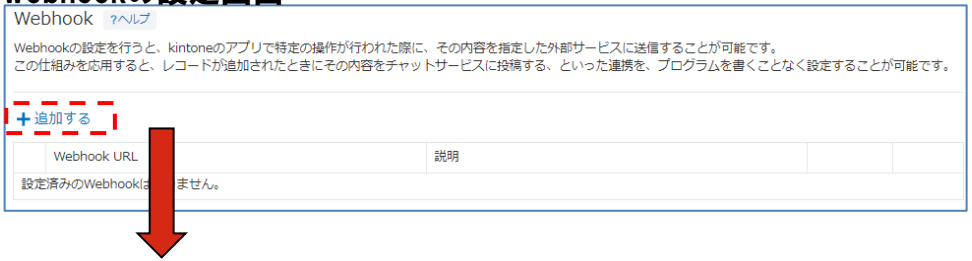
プロンプト設定 高度な設定 Webhook 設定②　（レコードを更新）

kintoneのWebhook設定例

アプリの設定画面



Webhookの設定画面



Webhookの追加画面



Webhook URL:
https://ai-web-api.smartat.jp/api/webhook

通知を送信する条件:
・レコードの追加
・レコードの編集

有効化:
「このWebhookを有効にする」をチェックする

https://より後を入力してください。

プロンプト設定（レコードを追加）

生成結果を指定したアプリへレコード追加する場合に設定します。



① 「新しい設定を追加」で設定を行います。

② 設定を有効にする場合はチェックします。

③ 任意の設定名を入力します。

④ 生成モードを選択します。
「文字生成」、「画像生成」、「ファイル生成」を選択します。
コードインタープリターを利用する場合は、「文字生成」を選択します。拡張子がpptx,xlsx,docx,pdfのファイルを生成する場合は、「ファイル生成」を選択します。

⑤ 生成結果のレコードを追加するアプリを指定します。
アプリID、アプリAPIトークン

⑥ 生成結果を保存するフィールドを選択します。
利用可能なフィールドの種類は、スライド「結果保存先で選択できるフィールド」に記載しています。

⑦ 生成モデルを選択します。
モデルによって利用できる添付ファイルやWeb検索を利用することができます。

プロンプト設定（レコードを追加）

生成結果を指定したアプリへレコード追加する場合に設定します。



⑧ プロンプトを入力します。

⑩のドロップダウンリストからフィールドの値を挿入することができます。
（例）%%フィールドコード%%
ファイル生成やコードインタープリターの生成を行う場合、文字化けしないように、フォントファイルを記載して下さい。また、ファイル生成を行う場合は、文字コードやエンコードも記載するようにしてください。
（例）日本語フォントは、IPAexフォントを使用し、文字コードはUTF-8でエンコードしてください。

⑨ プロンプトをプレビュー表示します。

最新のレコードを参照し、プロンプトをプレビュー表示することができます。

⑩ プロンプトへ項目を挿入する。

ドロップダウンリストから項目を選択し、「選択した項目を挿入」ボタンを押下することで、プロンプトへ項目を追加できます。
ドロップダウンリストの先頭の「項目名も同時に挿入する」にチェックすると、項目名も含め、挿入することができます。
「全ての項目を挿入」ボタンで全ての項目を挿入することもできます。

※挿入可能な項目の種類は、スライド「プロンプトに挿入できる項目」に記載しています。

※下記のシステム変数を挿入することができます（JST表示）。
実行した日時、実行した時刻、実行した曜日、実行した日。

※「長文生成モードを有効にする」をチェックしている場合、「繰り返し回数」と「総繰り返し回数」を挿入することができます。

プロンプト設定 高度な設定（レコードを追加）1

高度な設定では生成タイミング、生成ボタンのカスタマイズなどが可能です。



① 生成時の確認ダイアログの有無を選択します。

② 生成タイミングを設定します。
レコードを追加では、「一覧集約実行ボタン」のみ指定が可能です。
生成ボタンの名称をカスタマイズできます。
指定した一覧の情報を集約し、生成するボタンになります。
エージェント実行は、生成を実行する日時を指定することができます。
詳細は、次ページ以降のエージェント実行を参照して下さい。

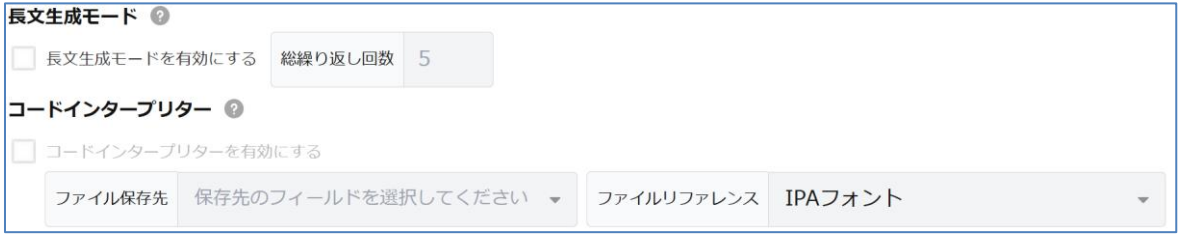
③ Web情報から最新の情報を含めて生成します。
Web検索可能な生成モデルを指定してください。コードインタープリターの同時利用はできません。

④ URLから情報を取得し、生成を行う場合はチェックします。
テキスト形式かHTML形式かを選択することができます。
※HTML形式を選択するとURLから取得する情報量が多くなり、
トークン数が上限を超えてしまう場合があります。トークン数の多いモデルを選択する、または情報量が少ないURLを指定して下さい。

⑤ プロンプト本文に含まれる一覧やテーブルフィールドの構造化方式を指定します。
toon形式にすると、生成結果の精度が向上する可能性があります。
※toon形式では、一覧に含まれるテーブルフィールドのフィールド名が出力されますが、CSV形式では出力されません。

プロンプト設定 高度な設定（レコードを追加）2

文字生成では、長文生成モードやコードインタープリターを利用することが可能です。



⑥ 長文生成モードを行う場合はチェックします。

長文などで何回かに分けて繰り返し生成する場合に、繰り返し回数を設定します。画像生成時は設定できません。

⑦ コードインタープリターを利用する場合はチェックします。

・コードインタープリターが利用できる生成モデルを利用し、数値計算やデータ分析などを行うことができます。
・生成結果としてファイルが出力される場合があるので、ファイル保存先のフィールドを指定します。
・画像生成時、２バイト文字が文字化けするため、画像生成時に利用するフォントを指定することができます。デフォルトで用意しているフォントを選択することが可能ですが、ファイルリファレンスを利用し、kintoneアプリに設定したフォントを取り込むことも可能です。
・対応しているフォントファイルは以下です。フォント以外のファイルは、指定しないようにしてください
・OpenAIの生成モデルでは、拡張子「ttf」、「otf」のファイルをZIPで圧縮したファイル
・Anthropicの生成モデルでは、拡張子「zip」、「ttf」、「otf」のファイル
※フォントを指定しても日本語タイトルなどで文字化けが発生する場合があります。
※プロンプト内で添付したフォントのファイル名を指定してください。

プロンプト設定 高度な設定（レコードを追加）3

画像生成時、生成画像枚数の指定が可能です。

⑧



⑧ 生成する画像の枚数を指定します。
最大4枚までです。

プロンプト設定 高度な設定 エージェント実行

エージェント実行にチェックを入れ、「実行日時設定」ボタンにより、生成を実行する日時を指定することができます。毎月、毎週、毎日の指定時間で生成を行います。



実行日時を設定します。

① 「実行周期を選択」を選択します。
実行周期を毎月、毎週、毎日から選択します。

② 「新しい設定を追加する」を押下します。

③ 実行日時を設定します。
毎月の場合は、日付と時間を設定します。月末を指定することも可能です。
毎週の場合は、曜日と時間を設定します。
毎日の場合は、時間を設定します。
複数の実行日時を設定することが可能です。

④ 設定済み実行日時一覧を確認することができます。
同一サブドメインで設定されている実行日時の一覧が表示されます。アプリが削除されている場合などで、実行できない設定は、削除アイコンが表示され、削除することができます。

プロンプト設定 高度な設定 生成モデルパラメーター

文字生成の場合、パラメータ値の詳細を設定することができます。



① 生成する出力トークン数の上限です。生成時に出力トークン数のエラーが発生する場合大きい数値に変更することでエラーが回避される場合があります。

② 出力のランダム性（多様性）を調整します。確率分布をなだらかにして、低確率語も選ばれやすくします。ランダム性を制御します。

値の目安:
- 0〜0.2: 正確性重視（コード、事実説明、フォーマット厳守）。
- 0.5〜0.8: バランス（一般的な文章生成）。
- 1.0以上: 創造性重視。まとまりが崩れやすくなることも。

ポイント:
- 0に近いほど安定・一貫、上げるほど創造的・多様。

③ 出力候補のうち、確率の累積がPになる最小集合だけを母集団としてサンプリングします（例: top_p=0.9なら、合計確率が90%に達する語群から選ぶ）。

値の目安:
- 1.0: 制限なし（実質オフ）。
- 0.8〜0.95: 適度に尾を切って、暴走や珍妙な語を減らす。
- 0.5以下: 非常に保守的で反復的になりやすい。

注意点

温度と上位Pの両方の値を変更すると効果が重なり挙動が不安定になりやすいので、基本はどちらか一方で調整して下さい。

トラブル回避のコツ

- 出力が途中で切れる → 最大応答を増やす
- 反復や凡庸さが目立つ → 温度を少し上げる or 上位Pを少し上げる
- 事実誤りや逸脱が増える → 温度を下げる or 上位Pを下げる

結果保存先で選択できるフィールド

文字生成、ファイル生成の場合

フィールドタイプ	備考
文字列（1行）	
文字列（複数行）	
リッチエディタ	
数値　※1	
ラジオボタン　※1	
ドロップダウン　※1	
日付　※1	
時刻　※1	
日時　※1	
リンク　※1	

※1 結果保存先ドロップダウン上部にある「文字列フィールド以外も表示する」にチェックした場合のみ表示されます。

レコードのコメント

レコードのコメントに結果を出力することができます。
※結果保存先ドロップダウン上部にある「文字列フィールド以外も表示する」にチェックした場合のみ表示されます。

画像生成、ファイル生成の場合

添付ファイルフィールドのみ。ファイル生成の場合、拡張子がpptx、xlsx、docs、pdfのファイルを生成することができます。

実行条件で選択できるフィールド（レコードを更新）

フィールドタイプ	備考
レコード番号	
文字列（1行）	
文字列（複数行）	
リッチエディタ	
数値	
計算	
リンク	
ステータス	
チェックボックス	
ラジオボタン	
複数選択	
ドロップダウン	
作成日時	
更新日時	
日時	
日付	
添付ファイル	

プロンプトに挿入できる項目　（レコードを更新）

フィールドタイプ	備考
作成日時 作成者 更新日時 更新者 文字列（1行） 文字列（複数行） リッチエディタ 数値 計算 ラジオボタン ドロップダウン 日付 時刻 日時 リンク ルックアップ ステータス 作業者	 cybozu.comに登録されている表示名がプロンプトに挿入されます。 cybozu.comに登録されている表示名がプロンプトに挿入されます。 プロセス管理が有効の場合のみ利用可能です。 プロセス管理が有効の場合のみ利用可能です。
チェックボックス 複数選択	複数の値が選択されている場合は、カンマ区切りでプロンプトに挿入されます。 例:「選択肢A, 選択肢B, 選択肢C」
ユーザー選択 組織選択 グループ選択 添付ファイル テーブル	選択肢にはcybozu.comに登録されている表示名、組織名、グループ名もしくはファイル名が入ります。 複数の値が選択されている場合は、カンマ区切りでプロンプトに挿入されます。 例:「選択肢A, 選択肢B, 選択肢C」 ファイル名のみの挿入です。ファイルの内容については、利用することはできません。 複数のフィールドが設定されている場合は、カンマ区切りでプロンプトに挿入されます。
コメント 　レコードのコメント	レコードのコメントがプロンプトに挿入されます。

プロンプトに挿入できる項目（レコード更新／レコード追加）

選択項目	備考
アプリの一覧	検索拡張(RAG)指定時、またはレコード追加時に、対象アプリの一覧を指定することができます。 指定した一覧のレコード情報がプロンプトに挿入されます。
実行した日時 実行した時刻 実行した曜日 実行した日	表示形式："yyyy-MM-ddTHH:mm:ss" "+09:00" 表示形式："HH:mm" 表示形式："dddd"（日本語の曜日） 表示形式："yyyy-MM-dd"
繰り返し回数 総繰り返し回数	長文生成モードを有効にした場合に挿入できます。 長文生成モードを有効にした場合に挿入できます。

添付ファイルで利用できるファイルの種類について

利用できない添付ファイルが指定されている場合は、エラーになります。

■OpenAIで対応している拡張子
画像：gif、jpeg、jpg、png、webp
文章：c、cpp、cs、css、doc、docx、go、html、java、js、json、md、pdf、php、pptx、py、
rb、sh、tex、ts、txt

■Anthropicで対応している拡張子
画像：gif、jpeg、jpg、png、webp
文章：pdf、py、js、ts、go、rs、csv、json、xml、yaml、txt、md、zip、tar.gz、ttf、otf

■Geminiで対応している拡張子
画像：jpeg、jpg、png、webp、heic、heif
動画：mp4、mpg、mpeg、mov、avi、flv、webm、wmv、3gpp、3gp
音声：wav、mp3、mpeg、aiff、aif、aifc、afc、aac、ogg、flac、m4a
文章：pdf、js、py、txt、html、htm、css、md、mdown、markdn、markdown、csv、xml、rtf

※生成モデルによって、利用できる種類（画像、動作、音声、文章）が異なります。
※OpenAIモデルでは、画像と書類は同時に利用（生成）することができません。また、文章のエンコードが「Shift-JIS」の場合、エラーになります。

設定情報



①「コンテンツストアはこちら」ボタン
コンテンツストアよりkintoneアプリや設定ファイルをダウンロードして、利用することが可能です。詳細は、コンテンツストアの設定マニュアルを参照してください。

②「設定保存履歴」ボタン
過去に保存した設定を確認することができ、有償プランでは復元することができます。
プロンプト数にマウスオーバーすると、設定情報の一部を確認することができます。

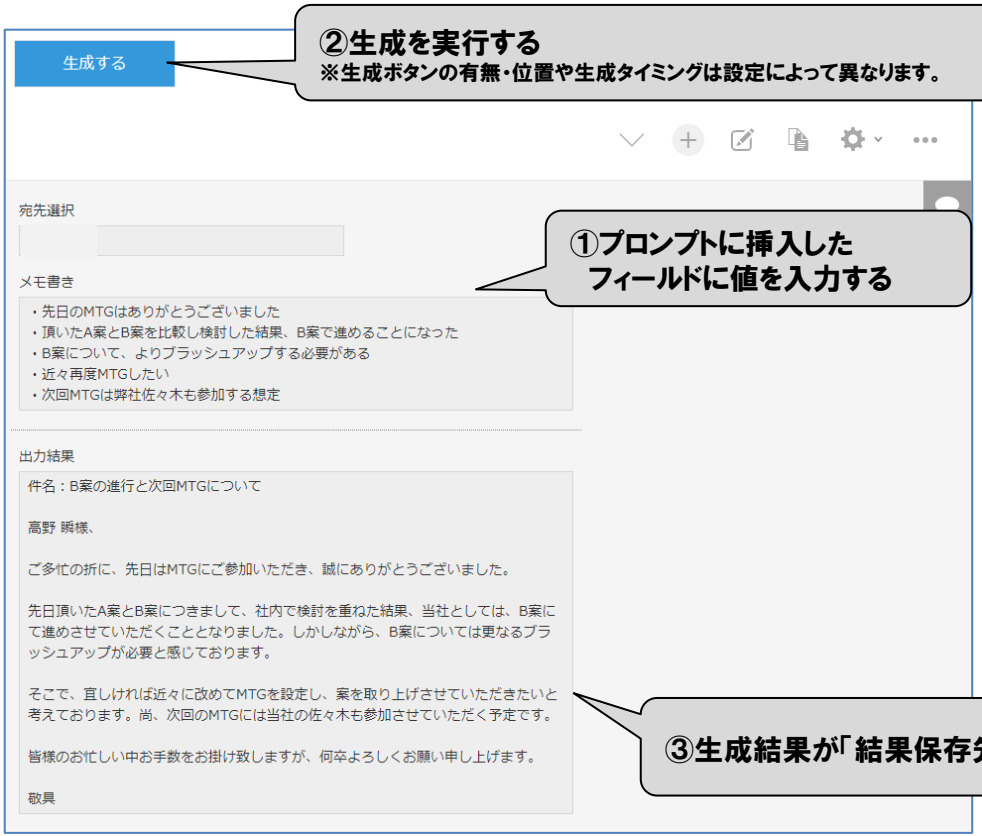




③「設定書出」ボタン
入力した情報をjsonファイルとしてダウンロードします。

④「設定読込」ボタン
③でダウンロードしたファイルを読み込ませることで、入力した情報を復元します。

生成を実行する



プロンプト例

あなたは優秀なビジネスマンです。
下記の宛先とメモ書きから、条件を満たすメールの本文を考えてください。

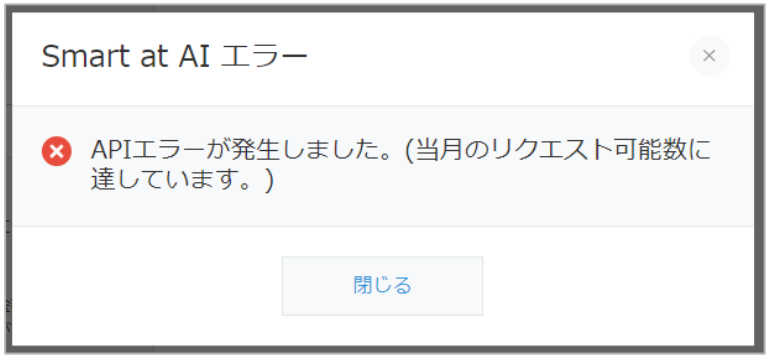
条件：
・ビジネス用の丁寧な文体で
・宛先は本文に含めて
・350文字程度で

宛先：
%%宛先選択%%

メモ書き：
%%メモ書き%%

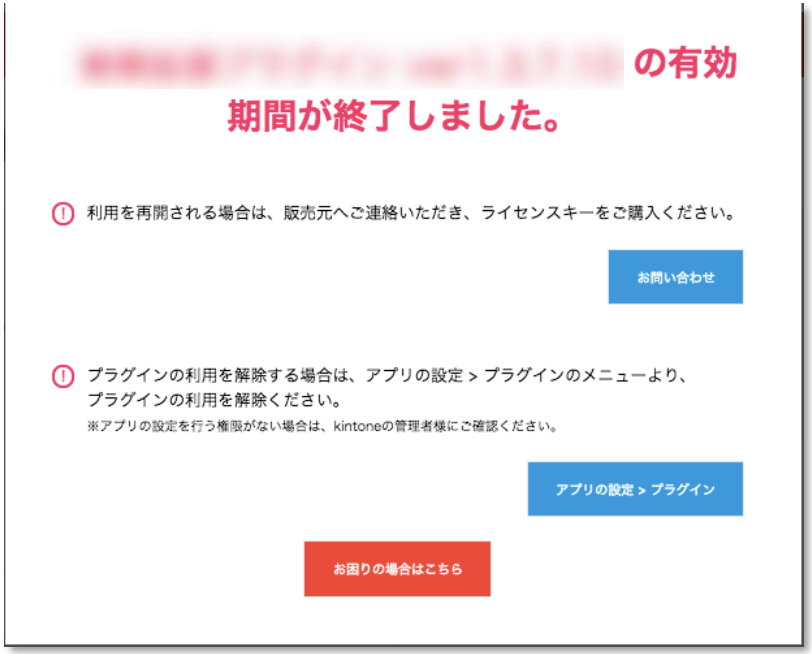
生成回数が契約の上限を超えた場合

ご契約されたプランの生成回数の上限に達した場合はエラーが表示されます。
サポートにお問い合わせください。



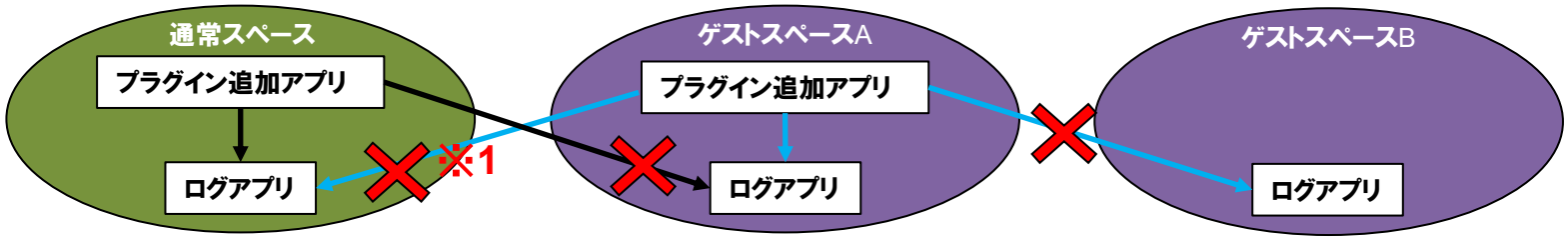
期限切れについて

トライアル期限や契約期日を超過してご利用の場合、
アプリの一覧画面で下記ダイアログが表示されアプリを利用することができません。
その場合、アプリからプラグインを削除するか、ご契約の更新をお願いいたします。



注意事項

- ゲストスペースに対応しています。ログ機能・バッチ実行ログ機能利用時は、プラグイン追加アプリが通常スペースにある場合は通常スペース、プラグイン追加アプリがゲストスペースにある場合は同じゲストスペースに、ログアプリを配置してください。



※1 バッチ実行ログは機能利用不可、ログ機能は利用可

- モバイル端末からブラウザ操作、kintoneのモバイルアプリに対応しています。
- セキュアアクセスに対応しています。プラグインを設定する際は、IPアドレスが許可された環境（kintoneのサブドメインに「.S」が含まれない環境）から設定して下さい。
- kintoneのBasic認証に対応しています。
- LGWAN環境には対応していません。
- kintoneにIPアドレス制限を設定している場合、以下の弊社サーバーのIPアドレスを許可して下さい。
  IPアドレス：74.226.163.53
- 「生成中にAPIエラーが発生しました。(指定されたモデルの最大トークン数を超えています。)」と表示された場合、プロンプトの文字数や結果の文字数が小さくなるよう調整してください。
- HTML表示を指定している場合、iframeタグは表示されません。

注意事項

- 「moconavi」のセキュアブラウザ「mocochro（モコクロ）」に対応しています。
- 実行条件によりすべての生成がスキップされた（１つも生成されなかった）場合、エラーメッセージが表示されます。
- SAML認証に対応しています。
- ２要素認証に対応しています。
- ゲストユーザーが生成実行した時に、検索拡張機能やカスタム一覧で「優先する組織」によるデータの絞り込みが設定されていると、意図した結果にならない場合があります。

ファイルリファレンス

本製品で利用するファイルをkintoneアプリで管理することができます。
トライアルや納品時にご案内しているメールのURLからダウンロードしてご利用ください。



① ファイルの概要を設定します。
プラグインで利用する場合に、選択する名称になります。

② ファイルを添付してください。